

## 論文要旨

インドネシア人看護人材の EPA 応募動機および困難の援助ニーズに及ぼす影響

池田 聖子

近年、日本は少子高齢化にともなう労働人口の減少が顕著になってきており、看護・介護分野においても外国人労働者の受入れが拡大されている。本研究の目的は、経済連携協定（Economic Partnership Agreement：以下、EPA）に基づくインドネシア人看護人材の EPA 応募動機、日本での生活において抱える困難、および援助ニーズを明らかにし、それらの関連性を検討することである。本研究は全7章で構成される。第1章および第2章では文献研究、第3章から第6章では実証研究を行い、第7章において総合的に考察した。

第1章では、日本における外国人労働者受入れの動向から EPA に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者受入れをめぐる現状を概観した。EPA に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れは今後も継続される見通しであるが、解決すべき課題が多くあることを示した。

第2章では、外国人看護・介護人材の実態に関する研究を「動機づけ」、「困難」、「ニーズ」という側面から整理し、関連する理論および先行研究を取り上げた上で概観した。外国人看護・介護人材がさまざまな困難に直面している様子が窺えるものの、彼らのニーズについては詳細に解明されていないため、実証研究の必要性を述べ、本研究の目的と研究課題を提示した。

第3章（研究1）では、インドネシア人看護師候補者7名を対象に半構造化インタビューを実施し、EPA 応募動機、困難、ニーズについて質的に分析した。その結果、EPA 応募動機は【スキル・経験の獲得】、【国外志向】、【外的誘因】、《経済的理由》という4つのカテゴリー、困難は【病院からの学習サポートの不足】、【国家試験対策の負担】、【人間関係構築の難しさ】、《慣れない日本語でのコミュニケーション》、《事前情報の不足》、《看護業務ができないことに対する不満》、《異文化環境における生活の不自由さ》という7つのカテゴリー、ニーズは【学習サポートの希求】、【自己向上への意欲】、《看護業務接触機会の要求》という3つのカテゴリーと【他のインドネシア人看護師への情報提供】という1つの単独カードに分類された。さらに、受入れ病院のサポートという観点から事例を取り上げ、詳細に検討した。これらの結果から、インドネシア人看護師候補者の持つ背景や彼らを取りまく状況は多様であり、個々の状況に応じたサポートが必要であることが示唆された。

第4章（研究2）では、インドネシア人看護師候補者の EPA 応募動機と援助ニーズの構造を明らかにし、それらの関連を検討することを目的に質問紙調査を実施した。因子分析の結果、EPA 応募動機として「キャリアにつながる知識・経験の獲得」、「経済的豊かさの希求」、「日本・インドネシア EPA への興味」、「外的誘因による関心」、「国外志向」の5因子、援助ニーズとして「現状理解・対応」、「環境・基盤充実」、「職務指導」、「社会的・文化的情報提供」、「国家試験対策」の5因子が抽出された。また、重

回帰分析の結果、EPA 応募動機が援助ニーズに影響を与えていることが明らかとなり、さらに、EPA 応募動機が影響を及ぼす援助ニーズは異なることが示された。

第5章（研究3）では、インドネシア人看護師候補者の抱える困難の構造を明らかにし、援助ニーズとの関連を検討することを目的に質問紙調査を実施した。因子分析の結果、困難として「日本語使用にともなう障壁」、「生活面の不満」、「異文化環境適応の難しさ」、「キャリアの不活用」、「学習環境の不足」の5因子が抽出された。また、重回帰分析の結果、困難が援助ニーズに影響を与えていることが明らかとなり、さらに、「生活面の不満」が複数の援助ニーズに影響を及ぼしていることが示された。

第6章（研究4）では、国家資格取得後のインドネシア人看護師 10 名を対象に半構造化インタビューを実施し、困難および援助ニーズについて質的に分析した。その結果、困難は【職務へのストレス】、【職務における言語・コミュニケーションの壁】、【職場環境・処遇の問題】、〈生活における人的ネットワークの不足〉という4つのカテゴリー、援助ニーズは【就労現場における支援体制】、《安定した EPA スキームの支援制度》、〈生活利便性向上のための資源〉という3つのカテゴリーと【孤独を癒す交流の場】という1つの単独カードに分類された。この結果から、インドネシア人看護師の抱える困難はほぼ職務に関するものであること、また、彼らの持つ援助ニーズは主に就労現場における職務上の支援体制と公的な支援枠組みの見直しであることが確認された。さらに、【職務へのストレス】に焦点をあて事例を通して検討したところ、【職務へのストレス】は自助努力では解決が難しく、帰国の原因となる可能性が示された。

第7章では、以上の結果を踏まえ、インドネシア人看護人材の実態および彼らに対する有効なサポートについて総合的に考察し、彼らの成長やキャリアパスを見据えた支援体制の必要性を論じた。本研究の意義として、インドネシア人看護人材の援助ニーズを詳細に解明し EPA 応募動機および困難との関連性を検証したこと、異文化理解や人間的発達の観点を踏まえた人材育成の重要性を示したこと、インドネシア人看護人材の帰国に関わる一因を検討したことが挙げられる。